



札幌の

学習支援を学んできました。

夕方から約4時間、色々な大学から参加しているカコタムの方々。生徒に「流氷饅頭」大好評でした。



6月4日にゼミ生7人、教員4人で「カコタム」視察▼同じ若者が真剣に教育・福祉で子どもの貧困問題に挑戦する姿が▼支援活動の姿勢や意欲、子どもとの接し方を学んできました。



▲代表の高橋さんの話を聞くゼミ生



▲子ども一人一人を語る事後の熱心なミーティング。



学生と生徒の距離が近く、わいわい楽しくやってるのが印象的。終了後のミーティングで指導や生徒の状態交流面では真剣な顔つきで、その場にあった振る舞いが大切だと考えるような機会だった。(3年 佐藤千秋)



子どもたちへの対応、子どもの表情がとても楽しそう。私も「教たま数学教室」でその表情を引き出せるよう真剣にぶつかっていききたい。(3年 山内飛龍)



私たちと目的は違う点もあるが、子どもの未来を守るのは変わらない。切磋琢磨して、子どもたちの良い学習環境を築けていけたらいいなと思った。(3年 東雲恭平)



教える方も教えられる方も楽しそうだった。子どもにとって勉強が出来、心地いい場所でもあると思えた。私もそうした楽しく思える教え方をしたい。(3年 樋口明日佳)



先生も生徒も楽しい勉強だ。興味を持たせ、それを応援するという非常に良い学び方だ。「教たま数学教室」でも活かしていきたい。(3年 中島健太郎)



衝撃を受けた。敬語が無く、教える側の負担も考えた運営がされている。この方法を学校で取り入れたら勉強好きな子が増えると思う。(2年 伊藤良平)



子どもと先生との会話が楽しく楽しそう。勉強だけでなく、生活や進路なども話がされ、子どもに応じて教えていてすごいと思った。(2年 佐藤達也)

「学びの機会格差」解消を目指して、学習支援を行い5年になる札幌のNPO法人「カコタム」(高橋勇造理事長)。約150人の大学生・社会人が月1~3回、100人の小中高生を市内3ヶ所で支



Kacotam とは

援中。「Kacotam」とは、自ら考える…考えるの「か (Ka)」、行動する…行動するの「こ (co)」、楽しむ…楽しむの「た、む (tam)」から名付けたそうです。



学びの想いの ありがたいお話

「教たま数学教室」をのぞいてみましょう

「因数分解ができるようになりました」、「証明が苦手なので、次回はそこを教えてください」、「えっ、もう終わりの時間ですか。もっと勉強したい」。教たま数学教室に通う中学生の言葉です。

まちラボでの学習には3つの「〇〇ット (ド)」、すなわち、「ヴィヴッド (生き生きと)」、「きちっと (確実に)」、「ゲット (学ぶ)」があります。「生き生きと確実に学ぶ」、そんな姿が見られます。

教師のタマゴの教え方にも感心しています。工夫がなされ、中学生の困り感にしっかりと応えています。中学生の真剣なまなざしと、わかった、解けたときの笑顔がその力となることがわかります。(教たまゼミ担当の澁谷久教授)

今回は記事が多く書き切れないので、17号と18号の同時発行です。